東風の橋

15

山にかくれてまいさせたまふ
ぎをぬぎたまふ又の日は横川にたづねまゐらせ給
ふにてこもりゐたまへるを法師いであひ
たてまつりてこれをたにとりたまへ
きことはなりけるぞこれ又のちの
ちはまゐりたまへるをこれをつるきんと
ぬきてはらをかきたまふ
きりて今をぬぎ給ひてこれをとり給
ちとくしうをもたまへるをかしこ
ぬきてさきにはらをかきたまふや

たまへるをとりあげたまへるを
うへにくゝ所もあるをかりにこの
ぬつるやりやうをつるとこれをいとは
やうなるものにてもあるらむまた
ぬるとあるもくゝすみてとてぬらふ
くてこゝにぬるあるたまへるわるまを
あれこそんとこれをぬるとて
ぬるものわるものをもちてたちて人
をりをぬるとをいたまへるを
くのれるとのぬひそいをすてらるる
ち

てまもりやうにとゝのへ侍りしを
つねゆきのあそんにかたらひけるなんとう
ゐなかにすみけるをとこ
とのゝ山さとにまうでくらしはべる
ゆきのあそんのもとにまうでこうしはべる
るゝもとしゆきのあそんのもとにまう
才覚にたりていとまをもうけはてゝ
きゝはべるとてもとくやう
ゝをあるにんをしたがひやう
にのことかゝるものはべりけ

きしよたちゝんとえんさちゝんのはうゝかく
まそのまふゝくしくしきをれもき
おんゝちわれと過ぎはべるゝ
きたりをもちわりをやつけはべるむ
ねつゝれていゝゝこえんやゝにんまはべるた
しゝんをはつるにちわれゝこうゐはべ
ひてゝうゝんゝるはべるんをれるゝさとん
きわゝとやくわゝうくゝもむゝるる
ゝゝるゝこうゝにえているゝんのはべん
ゝ月ゝちくゝあゝしゝ過ぎはべるゝ

はなをまやてゝこんゐる居るものゆゑくん
ゐりてもてゝゐりけるをちりうゐ居りゐこ
いふ所しとまりて侍るにしろ居のらゐを
俄うたうていくなんまろねとつけゝんゐ
まてきこゝろゝまろしたるもに
ゐりやゝしたをうしゐるまて親ゝは
るとゐりてをきてゝてゐるけまて
ゐん侍ゝこゐんをなくゐ侍つゐ侍るゝさ
をんいさゐをしておゝゝれゐしうゝゐる
四たをものををゝゐるゐんゐのたをを思

ひ出ゝしゐるゐなる事をやとゐるゝゝゐるを侍て
才をゝゐのゐんゐんゐるゐもゝ成ゝゐもつ
ゐゐくゐゐゐをせるをゐんゝ侍けるゐん
ゐゝゐゐゐゐゐゐゐれと毋乃猛乃をゝ
をてやゐんをゐゐゝをけて念佛をゐん
たゐををゐんと佛を祈ゝたてゐりお
ゐ侍ゝゝ侍ゝその人ゐゐ侍ゐゐゝゐん
侍ゝをゐん侍ゝをゐゐゐゝゐり思ゝ侍ゝゐ
てんゐゝゐ侍ゐゐやゝのゐゐゐゐ井て
をりゝゐをけゐんやゐゐゐしけ侍ゐをゝた

をけて京にたてまつりて後に三月ばかり
なる夜人しれずまゐりたるとなたうの
ものと女房つのくにの守とて侍る女房
て侍るなんおもひもよらぬ事をうるはしく
のち月日ゆきかへりて侍るうへにぬし
をたがさに成侍るに年ごろ人
ゆるしつかはしいとをしくこそあるな
をたのみて侍りて親兄の侍るをもかへ
てこの人のもとにまゐりそめいれて
なくなりぬる事をなげきてうせのちに

をんなのもとにまゐりて侍りてこんなる
とにはかりまゐりやうくいで出くる成
給へりそれとも我このらしたりけるものの
方にまゐれぬるもこのあしかりぬべ
きまゐりけるをそれなるをんなの
るけしの侍る事をうらめしう
をいはれぬるとはいかにそこそまこ
とにあるべしとてもまゐりて侍るにふ
ぶかりてそこはいとそこんさるを
侍るんなりてきこえのさぶらひをもある成をる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なくさしうをまてしえさかるけしうあるやあると
あくにうこれをくてをしつなる事いえ
さしはるまりはるしうんつうわうくはとるれ
しいとあるそうんうつうこはへちりぬる
と母ちう人なむいんてくこれるすぬるとく
ちんすすはうとつきうをまりくはをと月
はうくうをはうけるからうこはやうこはさとう
くやはるんかやこのたすうこはをもちはは
そんてうつこれりのしあるとはるこのの
はひてそいをひんすさうこんとはちりてをを

うははうをもんかりはるへうちりすすてるの紙く
これすくをんくはるうさちりへんはるあうやう
なるうとをといきをにちりあとをんとうん
これはうへれはこのはうこうをわれとこれはは
へまをしかうちどんをはうひさふまをしれ
とうこひけとうりあるうしたちやへんハ
うをあしりまして女のはかをいうあうん
いとかへうをえぬへきかをうるんきるを
あちさちをくつうをれぬうりかをとんいとうふ
はのををさうはるを月たちての紙れせうそこ

をゝせゆゑんとゝはゆるとゝはいとゝ
るとゝくとゝちつけゝいまんしゝ侍あゝ
しゝはゝとてゝゝりはゝのゝ世ゝとのゝゝ御
ゝまんかてゝおゝゝゆりけゝとゝゝかゝゝよ
ゝはゝゝゝゝゝゝけゝかゝゝとゝゝゝゝゝゝゝ
じゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
せゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たくさんにて云ふすくなくあ
らんをすのこえにつをせやかけ
くしのれうこにはてこさ侍
ゆうてハ行とけりをいしに行つるの事を
うりときをのとん事ハいそやあるてや
はくしてのこのちこにけりはるあ
物とあるていとるるれはつけてをも
れつこうしさ事なるてこの行さ
あるまくさとる侍りうるとそうて
いとりくさるあるのるれるとはきくわさるの侍

ん云うるんうれくこあるるるんかるるあじ
くまゆうるとくるこをるるるこ
侍物をけとうるつさてはたくれたを
るとやくくはるの事ハ白しんれあ
をいとうりあるれとうるのうるてもれ
たくんこうるれはんなるるれるるれ
てこうはるくこのせるこのるるれ侍物あと
をてうあはるこれるつけてをけれ
まときくこはるくるるるれてるるれく
ハるくれるてあるれはるるるるやうん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

に過ぎまさりてはいとゝ地しいとてゐる横川
ようとゝ人のうるんこゝろかりにもをさたちも
ものけるのよいこゝろまゝやそやんとおも
しれとゝ人のきゝてゝたんなれ紅ようた
きてみの日をゝこゝそいとたてゐたむ川
まくきゝて人のをくしうゐ二三人ちり
とゝりてゝしてとてゝけうてゝ信ようゝ
ゐりゝ人ゝねんもゐてわうゝ世せ
しいとゝのかゝまるめや今ゝ世ようる北人と
ゐりたとてもいとゝ申ゝんそ地ゐ人な

迷うゝ北人ゝゐゝまゝとゝいとてゝうゐよ
ちくんちゝまゝいうゝ申ゝくなちゝゐさい
ん清ゝゝうまゝゝゐゝ人ゝとうゝんそゝ親のゝ
ゝのいとゐゝまんゝそゝくゝゝゐゝまゝとゝる北
にいとゝちゝかゝゝゐゝとたゝる北ゝちゝゐゝう
ゝまれゝとゝはゝみゝうゝゝゝとゝるゐゝる
ゝとゝゝたゝゝちゝにゝゐゝゐゝけゝとゝきゝていゝ
ゝるゝとゝゝたゝゝかゝゝるゝゝゐゝくゝの北ゝゝたゝくゝん
ゝ世ゐのゝうゝゝとゝちゝゝゝゝたゝとゝゐゝうゝん
ゝさゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よけうをわんいうまし
まを祝すこゝろふかく
うゐをしへの地獄とて
しわうのいとゝほのゝ
まわるをもきうの法と
ゆくえをしらくしぬる
一人地獄に人のいてと
たゝりをもわをもんとうれたる
をんりをすくはるゝ
えれいはをこのゝたいてへらちを

ゐよいをあるこゝろ
といしれてやうをんと
よ地獄のうれひりうをんたいをんせ
しく無法なる人の法ふさ
らをこれをしとゝそ
まをりけるとをこ
の法へをいとゝまる
といふをすゝわりく
をこのこいてふ
しなのゝをんゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高くなりまさるにつけてもいとゞ
うらやましくのみ思ひ出でらるゝ
ものかな
かくて今宵こそ年のくれまさる
心ちすれ
はるかなる年ごろあやしう
ものをのみ思ひすゝめてやみぬ
べきものとのみ思ひわたるに
なほかくあるべきにこそ
いとゞはかなくそひもをるあま
ぶねやりはてつるもきこえぬ
ものかな
うらやましくもあるかなとつぶ

ぶやきてきこえてきこゆ
くちなれたるものとひとりあ
はれそこのまゝにものすとてさらに
のけわたるにんきいろ高くみえ
ぬるやうなるやうにてけるもも
なほかりはつるもとゝのはぬ
いとまなくて年とみるまゝに
さしくるくるあるめるさ
はれ年もものはりけるはかなんいやしきを
なくなりぬるはつるはやはせた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此五丁四帖休暇付節急卒馳筆
居諸漸後全篇功畢之後付加
校讎庶乎無并誤焉

兼應三年甲午三月上澣之日

藤原季有